

福井市環境学習プログラム

～持続可能な社会の構築に向けた ESD～



福井市

令和2年4月 改定

目 次

福井市環境学習プログラムの内容とスケジュール	1
本プログラムにおけるE S Dの考え方	2
福井市学校版環境 I S O 認定制度（新）	4
目標・取組内容の決定 / 実施計画書の作成・提出	4
実行・点検	5
＜参考＞取組内容 例	5
見直し／実施報告書の作成と提出	6

福井市環境学習プログラムの趣旨

本市では、平成 18 年に環境マネジメントシステム国際規格「ISO14001」の考えを取り入れた「福井市学校版環境 ISO 認定制度」を創設し、各学校において環境学習の推進を図ってきました。その結果、ごみの分別やリサイクル、節電や節水などの日常の生活環境を意識した行動が定着するとともに、各学校に環境に関する委員会ができるなど、学校における環境活動が活発化してきました。

一方、地球環境に目を向けると、温暖化防止対策の取り組みや再生可能エネルギー導入の推進など、現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる開発を目指すことが重要な課題となっています。

こうしたことから、このたび、これまでの環境活動を継続する中で、持続可能な社会や未来のため行動できる人材の育成を図るため、「福井市環境学習プログラム」を策定しました。

この学習プログラムは、人としての育みの場、かつ総合的に教育を実践する場である幼稚園、小学校、中学校（以下「学校」という）で、持続可能な社会づくりのための学習の推進や、持続可能な社会を築くため地球環境を意識し、自らの考えを持って行動する環境市民を育むためのもので、これまでの「福井市学校版環境 ISO」（H18.4 作成）の取組を発展させたものです。

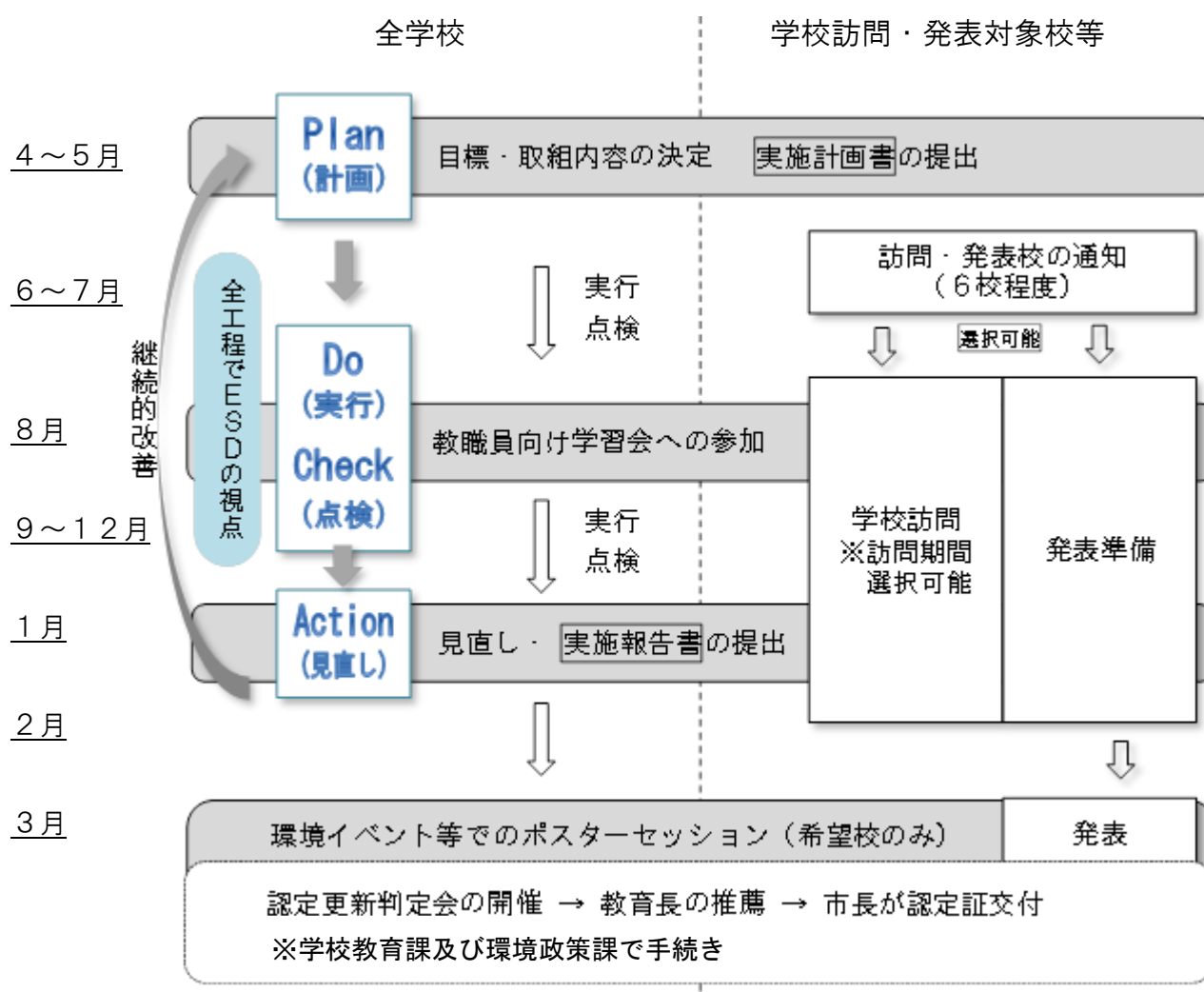
今後、本市では、この学習プログラムを各学校で導入し、「ESD（持続可能な開発のための教育）」を推進するとともに、学校での環境学習を通じて持続可能な開発のための人（地球市民）づくりに取り組んでいきます。

福井市環境学習プログラムの内容とスケジュール

学校は、以下の3つの取組を行います。

- ◆「福井市学校版環境ISO認定制度（新）」の取組
 - ・PDCAサイクルに基づき、取組内容を見直しながら継続します。（手順：P4～7 参考）
- ◆学校訪問・発表の実施
 - ・取組内容の確認やアドバイス、又、PRを目的に、学校訪問の受入れ又は環境イベントでの発表を行います。学校訪問・発表校は、計6校程度とし、市民等と市職員が学校を訪問します。
- ◆教職員向け学習会への参加
 - ・毎年開催する、環境学習に関する教職員向けの学習会に参加します。

運用スケジュール



ポスターセッション

…任意で、環境イベント等において「実施報告書」を元にポスターセッションを行います。

本プログラムにおけるESDの考え方

ESDとは「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の略称です。一人ひとりが自然環境や資源の有限性、地域の将来性など、様々な分野とのつながりを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人材を育成する教育のことです。

本プログラムでは、ESDの視点に立った学習指導の枠組みとして国立教育政策研究所教育課程研究センターが示す、以下のような6つの「概念(図1)」と7つの「能力・態度(図2)」を理解し養う取組を進めます。

図1

持続可能な社会をつくるために理解・実感することが大切な概念

I 多様性

自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物(ものごと)から成り立ち、それらの中では多種多様な現象(出来事)が起きていること

II 相互性

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること

III 有限性

自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源(物質やエネルギー)に支えられながら、不可逆的に変化していること

IV 公平性

持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること

V 連携性

持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること

VI 責任性

持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち、それに向かって変容・変革することにより構築されること



ESD
です。

これまで学校版ISOの中で取り組んでいた環境活動にESDの考えを意識的に取り入れてみましょう。

図 2

E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度

① 批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力

② 未来像を予測して計画を立てる力

過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力

③ 多面的・総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力

④ コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

⑤ 他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

⑥ つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度

⑦ 進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度



<引用・参考ホームページ>

- E S D って何だろう？（環境省）
<https://edu.env.go.jp/whatesd.html> (2020. 3. 30)
- 「E S D リーフレット」(国立教育環境政策研究所 教育課程研究センター)
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf (2014. 2. 6)
- 「学校における持続可能な発展のための教育（E S D）に関する研究（同上）」
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf (2014. 2. 6)
- 「ユネスコスクールと持続発展教育（E S D）」(日本ユネスコ国内委員会)
http://www.unesco-school.mext.go.jp/?action=common_download_main&upload_id=5831 (2020. 3. 30)
- 挿絵：京エコロジーセンターホームページより（P 2～3 及び裏表紙に掲載のイラスト全て）

1 目標・取組内容の決定 / 実施計画書の作成・提出

Plan(計画)

学校の現状や前年度の改善点などを把握した上で、目標とその目標を達成するため、E S D の視点を取り入れた取組内容で計画を立てます。学校の実情に合った無理のない内容としてください。

その内容を元に「実施計画書」（様式第 1 号）を作成し、毎年度 5 月末日までに福井市教育委員会事務局学校教育課へ提出します。

様式第 1 号

記入例

福井市学校版環境 I S O 実施計画書

福井市長 様

私たちの学校は、恵み豊かな環境を守り未来に引き継いでいくために、環境保全に関する学習、教育及び活動を積極的に行って環境にやさしい学校づくりと生命や自然の大切さを理解し郷土を愛するモラルの高い児童・生徒の育成に取組むための実施計画を作成しましたので、福井市学校版環境 I S O 認定制度による認定（又は認定の更新）を申し込みます。

令和 2 年 5 月 2 0 日

従来制度の「環境方針」や「学校の約束」等を参考に記入して下さい。目標は教室や職員室などに掲示し学校内外に広く公表しましょう。

学校名 ○○小学校

校長氏名 ○○ ○○

1 目標（学校の約束）

- ①○○地区の環境、地球環境について学習します。
- ②学校で節電・節水に努めます。
- ③地域と連携し清掃活動やリサイクルに努めます。

目標は年度が変わっても必ずしも変更する必要はありません。ただし、昨年度「実施報告書」を提出した学校は、昨年度の「改善点」を踏まえ見直しが必要になった場合に変更してください。

2 取組内容

①環境学習

- ・○○地区の自然環境について学習会を実施します。

②節電・節水の取組

- ・環境委員会で毎月学校の電気の使用量を調べ、校内に掲示し節電を呼びかけます。
- ・花壇の水遣りには雨水を利用するようにします。

学校の現状を把握し「目標」を達成するための「取組内容」を児童生徒と先生一緒に考えてみて下さい。目標に対応するような内容にしてください。

③地域と連携して分別回収・清掃活動

- ・アルミ缶や古紙の回収を PTA や地域と連携して実施します。また、事前にごみの減量やリサイクルについて学びます。

特定の学年やクラスだけではなく、学校全体で取組める内容も考えてください。

★E S D ポイント

- ③の廃品回収では、様々な年齢層の人と積極的に話せるようグループ分けを行い、互いに協力する力を身につける。（コミュニケーション・協力）

取組内容の内、1 項目について E S D の視点をどのように取り入れるかを記載してください。

※「取組内容」や「★E S D ポイント」は次のページをご参考ください。

＜参考＞取組内容 例

取組内容や実施計画書・報告書を作成する際に参考にしてください。

分類	取組内容（例）	E S Dの視点を取り入れるポイント（例）
環境教育 環境学習	持ち物を大切にするように、園児・児童・生徒を指導する。	資源には限りがあり、大切に使用することで長く資源を有効に使えることを理解する。（有限性）
	再生可能エネルギー施設を見学する。	現在の生活を見直し、持続可能な将来を想像する力を養う。（批判・未来）
	地域の貴重な動植物や外来種などを調べる。	周囲の環境や他の生物と関わり合いながら生きていることを学び、生物多様性を理解する。（相互性・多様性）
	校内にみどりのカーテンをつくる。	皆で1つのものを作り上げることにより、力を合わせ成し遂げることの重要性を理解する。（協力）
省資源 省エネルギー	使用していない教室や廊下、トイレなどの照明をこまめに消す。	消灯係をみんなで順番にすることで、責任感を身につけ、主体的に取り組む。（参加）
	可能なものは両面印刷や両面をする。	資源には限りがあり、大切に使用することで長く資源を有効に使えることを理解する。（有限性）
	夏休みに節電絵日記を作成し発表する。	クラスで発表会をすることで、自分の考えを伝えとともに他者の意見を聞く力を養う。（コミュニケーション）
	毎月の電気使用量のグラフを作成し、節電効果を見える化する。	単に節電するのではなく、客観的に物事をみる力養う。（多面的・総合的）
リサイクル ごみ減量	廃棄食材を使って堆肥をつくる。	廃棄食材が有機物として活用されることで新たな植物が生長することを理解する。（多様性）
	不要になったプリントなどで小さなごみ箱をつくり再利用する。	不要になったものを再利用し有効に使う力を身に付ける。（多面的）
	運動会や文化祭のイベントでごみ分別コーナーを設け啓発する。	生徒たちが協力しあいながら主体的に行動する能力を身に付ける。（協力・参加）
	ごみの分別を徹底する。 学校給食の牛乳パックをリサイクルする。	資源は限られており、将来世代のために有効に使用しなければならないことを理解する。（有限性・公平性）
環境保全活動 その他の	漁業のかかえる課題を考える。	漁業には海洋資源を豊かにするための自然環境の保全や地域のお業種との関わりが不可欠であることを理解する。（相互性・連携性）
	学校での環境にやさしい取組を家族にも伝え自宅でも取り組む。	多くの場所で活動を行うことにより、社会全体での意識を高める。（連携性）
	地域の清掃活動に参加する。	地域の幅広い年代の人と接し、互いに協力する力を身に付ける。（相互性・連携性・協力）
	学校のエコキャラクターをつくり、環境への意識を高める。	自分たちで考え共有した意見や取組を実践することで、率先して参加する態度を養う。（参加）

ここに記載しているものはほんの一例です。

普段、何気なく取り組んでいる環境活動のほとんどがESDに繋がっています。

「ESDの考え方（P2～3）」を参考に、環境学習にESDの視点を取り入れる工夫をお願いします。

2 実行・点検

Do(実行)・Check(点検)

教職員と園児、児童及び生徒が一緒になって協力し合いながら実施計画に沿って活動します。

実施した結果を定期的に点検し、取組が計画したとおりに進んでいるか確認しながら進めます。

また、取組む際にはESDの視点を取り入れます。

取組が終了したら取組内容ごとに具体的効果・改善点について見直しを行ってください。
 実際に取組んだ内容と見直しの内容を元に「福井市学校版環境ISO 実施報告書（様式第2号）」を作成します。また、取組んだ内容のうち1項目に対し、E S Dの視点を取り入れたポイントを記載します。報告書は毎年度1月末日までに福井市教育委員会事務局学校教育課へ提出します。

様式第2号

(提出日) 令和3年1月29日

記入例

福井市学校版環境ISO 実施報告書

学校名 ○○小学校

学校に関する写真又はイラスト
 校舎でも活動場所でも何でもOKです！

1 今年度の目標（学校の約束）

- ①○○の環境、地球環境について学習します。
- ②学校で節電・節水に努めます。
- ③地域と連携し清掃活動やリサイクルに努めます。

計画書と同じ内容



2 取組内容

①環境学習

- ・○○地区の河川の水質環境について学習会を実施しました。また、下水処理施設を見学しました。

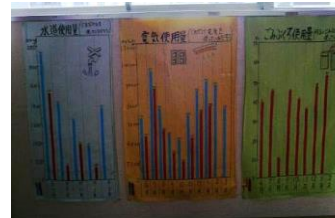
実際に取り組んだ内容を記載してください。



総合の時間にゲストティーチャーを招いて、○○川の水生生物などの学習。 ○○浄化センターの見学。

②節電・節水の取組

- ・蛇口や電気のスイッチ場所に節水や節電のポスターを掲示しました。また、毎月、電気の使用量をグラフで掲示し、節電の呼び掛けをしました。



③地域と連携して廃品回収

- ・地域の人々と協力して、廃品回収を行いました。



アルミ缶回収ボックス



PTA・地域あげでの廃品回収（年2回）

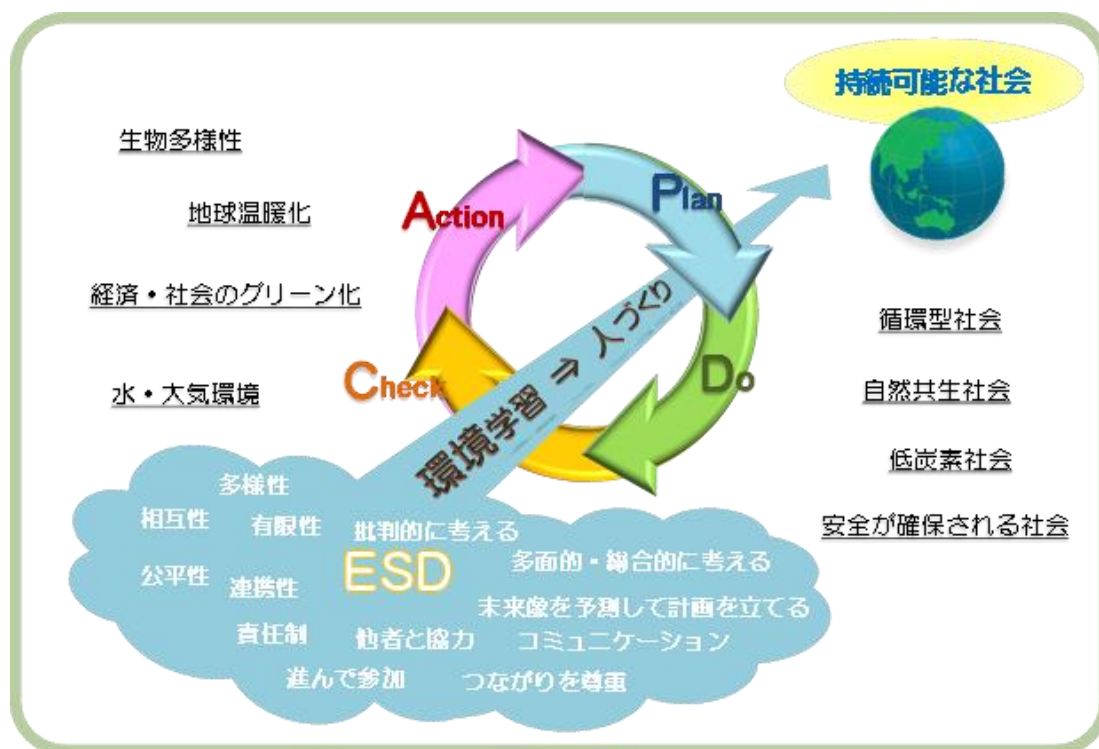


この報告書はHP
 等にそのまま掲載
 する予定です。
 取組内容が分かる
 写真を掲載してく
 ださい。

3 見直し	★ESDポイント ③の廃品回収では、様々な年齢層の人と積極的に話し合い、互いに協力する力を身につけることができました。 (コミュニケーション・協力)	取組内容の内、1項目についてESDの視点を取り入れたポイントを記載して下さい。 本手引書P5「ESDの視点を取り入れるポイント」を参考にしてみてください。
	【具体的効果】 ①総合の時間に地域の自然環境を学習することにより、児童の中に自然環境を大切にしようとする意識や地域を愛する心が育ってきています。 ②児童が自ら啓発しひとりひとりが心がけることにより、着実に省エネの意識が根付いています。 ③廃品回収などリサイクル活動が地域に定着し、協力する家庭が多くなってきています。プルタブを集める活動では、「1ステージクリア」など、目標達成が目に見える形で示すことで、意欲的に集めることができています。 【改善点】 ・保護者や地域の方にも、学校での取組を今まで以上に広げ、地域の環境に対する意識を高めていきたい。 ・活動の状況について、児童と話し合う時間を設け、教師と児童がともに考えながら活動を進めてくようにしていきたい。	取組の中で次年度に向けて改善点を記載してください。次年度はこの改善点を踏まえ取組内容を決定します。

1枚で書ききれない場合は、2枚目以降に記載してください。

「福井市学校版環境ISO認定制度（新）」に取り組む福井市の学校に対し、本プログラムの趣旨に沿った取組が認められたとき、福井市教育長の推薦のもとに福井市長が「環境にやさしい学校」として認定します。なお、認定期間は一年間です。



環境学習プログラム イメージ図

本プログラム策定に係る検討経過

<福井市学校版環境 ISO 見直し検討会に係る検討経過>

年月日	会議名、主な協議内容等
平成25年 6月13日	福井市学校版環境 ISO 認定制度見直し検討会の発足 第1回 検討会 ・福井市学校版環境 ISO 認定制度について ・福井市学校版環境 ISO 認定制度の見直しの検討の経緯 ・福井市学校版環境 ISO 認定制度の成果等について ・見直しの方針～学校教育でのESDの浸透に向けて～
平成25年 8月	アンケート調査
平成25年 11月 5日	第2回 検討会 ・アンケート結果報告 ・見直し方針（案）
平成26年 2月 4日	第3回 検討会 ・見直し後のスケジュール ・マニュアルの更新（案）について

<検討会メンバー（有識者）>

氏 名	所 属（平成26年2月時点）
桶谷 治寛	環境カウンセラー
笠井 利浩	福井工業大学 工学部 経営情報学科 准教授
菊沢 正裕	福井県立大学 学術教養センター 教授
坪内 彰	福井市環境パートナーシップ会議 委員

※五十音順、敬称略



平成18年 4月 制作

平成21年12月 改定

平成26年 4月 改定

令和 2年 4月 改定

【問合せ先】

〒910-8511 福井市大手3丁目10-1

福井市 市民生活部 環境事務所 環境政策課

TEL : 0776-20-5609 FAX : 0776-20-5754

E-mail : kansei@city.fukui.lg.jp

福井市 教育委員会事務局 学校教育課

TEL : 0776-20-5350 FAX : 0776-20-5344

E-mail : gakkou@city.fukui.lg.jp